

第3期ふるさと秋田農林水産ビジョン素案について

平成29年12月8日
農林水産委員会提出資料
(当日配付)

ビジョンの構成

第1編 ビジョンの策定にあたって

- 計画の位置付け
 - ・「秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例」に基づく基本計画
 - ・「第3期元気プラン」を補完し、農林水産業全体を網羅する基本計画
- 実施期間 平成30～33年度（4年間）
- 農林水産業を取り巻く情勢
- 第2期ビジョンの成果と課題、今後の推進方針

第2編 ビジョンの目指す姿

第3編 施策展開

※元気プランと同じ施策体系とし、観光文化スポーツ部(秋田うまいもの販売課)の施策の一部を取り込み構成

- ビジョンの実現に向けた7つの施策を展開
 - 1 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成
 - 2 複合型生産構造への転換の加速化
 - 3 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用
 - 4 秋田の農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化
 - 5 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化
 - 6 つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興
 - 7 地域資源を生かした活力ある農山漁村づくり

第4編 重点プロジェクト

- 農林水産業を巡る情勢に的確に対応するため、喫緊に取り組むべき課題を抽出し、新たな視点による施策を緊急かつ集中的に実施

第5編 主要指標（基本フレーム）

産出額（農業、林業、漁業）、農林漁家戸数、農地、労働力（農業就業人口、林業・漁業従事者数）等

第6編 参考資料

用語解説、目指す成果（指標）一覧 等

■経営モデル（営農類型）※現在策定中

- 力強い経営体の育成に向けた営農類型・経営指標
 - ・個別経営体、法人経営体（類型のタイプは検討中）

ビジョンの目指す姿

- 国の農政改革等による産地間競争の激化や、人口減少を背景とした労働力不足など、社会情勢の変化への的確な対応による農林水産業の成長産業化
- 着実に成果が現れてきている「米依存からの脱却」、「複合型生産構造への転換」に向けたこれまでの取組をもう一段ステップアップし、本県農業の構造改革を実現
- 木材の新たな市場の開拓等による需要拡大や、川上から川下まで競争力の高い木材・木製品の安定的な供給体制の整備による全国屈指の木材総合加工産地としての更なる発展
- 「全国豊かな海づくり大会」等を契機として、本県水産産業の魅力を全国に発信するとともに、リニューアルされる水産振興センター栽培漁業施設を活用したつくり育てる漁業の推進等による浜の活性化

主な数値目標

- 農業産出額（しいたけを含む）
(H27) 1,655億円 → (H33) 1,945億円
(内しいたけ43億円) (内しいたけ64億円)
 - 農業法人数（認定農業者）
(H28) 576法人 → (H33) 850法人
 - 主要園芸品目の系統販売額
(H28) 16,029百万円 → (H33) 21,206百万円
 - 畜産産出額
(H27) 352億円 → (H33) 410億円
 - 全国に占める秋田米のシェア
(H27) 5.47% → (H33) 5.66%
 - 6次産業化事業体販売額
(H27) 14,258百万円 → (H33) 20,000百万円
 - 素材生産量（燃料用を含む）
(H28) 1,470千m³ → (H33) 1,700千m³
 - スギ製品出荷量
(H28) 591千m³ → (H33) 706千m³
 - 海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額
(H28) 2,880千円 → (H33) 3,168千円
- など37指標

新時代を勝ち抜く！攻めの重点プロジェクト

<新たな視点>

- ・米政策の見直しなど国の農政改革、国際通商協定の締結による産地間競争の激化や、流通から販売にわたる構造改革への対応
- ・将来の人口減少を見据えた産業構造的な人手不足への対応
- ・ICTやAI、ロボット技術等を駆使した次世代型農林水産業の展開

I 平成30年以降の産地間競争の激化を踏まえた対応

- 複合型生産構造への転換の加速化
 - ・大規模園芸拠点、大規模畜産団地の全県展開
 - ・「しいたけ」や「えだまめ」など日本一を目指す園芸産地づくりの拡大
 - ・産地づくりと一体となった基盤整備の促進
- 秋田米の戦略的な生産・販売
 - ・秋田米をリードする新品種デビュー対策の推進
 - ・販売を起点とした「秋田米生産・販売戦略」の推進

II 人口減少社会を見据えた多様な担い手・労働力確保

- ・次代を担う農林水産業の担い手の確保・育成
- ・多様なルートから秋田に呼び込む移住就業の促進
- ・農業労働力を安定的に確保する仕組みづくり

III 第4次産業革命による農林水産イノベーション推進

- ・稲作 → 最新技術を駆使した高品質・低コスト生産技術体系の確立
- ・園芸 → 作業軽労化（アシストスーツ）自動環境制御技術の導入
- ・畜産 → 酪農への先端技術導入（分娩監視カメラ等）
- ・林業 → 丸太の流通情報を共有する木材クラウドの構築・運用
- ・漁業 → 漁獲情報の集約と情報伝達システムの構築

IV 企業とタイアップした流通販売体制の構築

- ・秋田の強みを生かした農林水産物の輸出促進
- ・企業と連携した新たな需要の創出に向けた取組の強化
- ・GAP等による安全・安心対策の向上